めでいかすとる Médicastre

「 朝靄の上池（大山公園）」

鶴岡地区医師会　　17 年 **9** 月号

医師会勉強会抄録

日　時：平成 17 年 8 月 5 日(金)
場　所：医師会 3 階講堂

医療安全管理体制の確立に向けて
～東北大学病院の取り組み～

東北大学病院　新西 14 階病棟看護師長
医療安全推進室総括アドバイザー
庄　子　由　美　先生

1999 年 1 月に発生した患者を取り違えて手術をするという重大な医療事故を契機に、我国において本格的に医療安全対策が進められることとなった。リスクマネジメントは、「人間はエラーを起こす」ということを前提として、そのエラーが事故へつながらないようにマネジメントする 一連のプロセスである。医療安全管理体制の確立に向けて東北大学病院の取り組みを紹介する。

東北大学病院では、1999 年 9 月に医療事故防止対策委員会が設置され、医療安全管理に本格的に取り組み始めた。2000 年 10 月より全職種に対するインシデントレポート報告制度を開始した。2001 年 4 月に事故防止・医療安全を専任で担当する「ゼネラルリスクマネジャー」を配置、2001 年 8 月に医療安全管理を担当する「医療安全推進室」を設置した。医療安全推進室は、診療科・部門に属さない中立的な立場で、病院長直轄と位置付けられた。

医療安全管理は一部の人間が一生懸命行っているだけでは機能しない。職種を問わず、病院職員１人１人が医療の質と安全の確保は職員の責務である事を自覚し、全員で取り組んでいくことが必要である。職員全員が安全管理に真剣に取り組むことを目的に取り組んできた事を以下に示す。

①院内における医療安全管理の組織体制を明確にする。

②インシデントレポートを改善に生かす：複数職種によるインシデント審議会の開催、リスクマネジャー会議を全リスクマネジャーが参加する会議とし、インシデント事例分析結果（ヒューマンエラー分析に有効であるといわれている時系列事象関連図法にて分析）を示し、対策を検討する。

③医療安全に組織を挙げて真剣に取り組んでいくという宣言：2002 年 11 月 29 日に「医療安全取り組み宣言」を行った。宣言は 3 ヵ条であり、病院の理念と共に各部署に掲示した。2004 年 4 月には病院の正門の脇に建立された「救命救急と医療安全の碑」に刻まれた。

④医療安全に関する研修受講シールの発行：ネームプレートに貼る事とした。

⑤複数の職種で問題解決を図るプロジェクトチームの活動：医療安全推進室の標準化推進部会において様々なテーマでプロジェクトチームが活動している。インスリンの安全管理チームでは、医師・看護師・薬剤師が参加し、ＰＤＳＡ（Plan-Do-Study-Action）サイクルに則り、インスリンスライディングスケール・低血糖時の指示・インスリン持続静注の希釈法・インスリン指示の記載法について標準化を図り、医療安全管理マニュアルに掲載した。

⑥QC（Quality Control）的問題解決法の考え方の勉強会：「ＫＡＩＺＥＮ」勉強会を定期的に開催し、問題解決の基本的考え方やインシデント事例分析演習を行う。

医療安全への取り組みは、最後の勝利なきゲリラ戦にたとえられる。診療科・職種の壁を越えて、組織横断的な活動を行い、たゆまぬ努力をしていくことが重要である。

第5回子どもの心を考える庄内の会

鶴岡市立荘内病院小児科
伊 藤 末 志

平成17年8月28日（日）に東京第一ホテル鶴岡で上記の会が開催されましたのでご報告致します。

例年8月に鶴岡（荘内病院）、3月に酒田（日本海病院）を会場にしてきた会ですが、今回は荘内病院の講堂が他の研究会で使用のため会場を変更して行われました。教育（主に養護教諭）、心理（臨床心理士など）、医療（精神科医、小児科医、校医など）のそれぞれの分野の話題を順にメーンテーマにして症例検討および講演会を行っています。今回は医療分野からのテーマ（PTSD）でありました。

事例検討会には市立酒田病院臨床心理士の松本千鶴子先生から「小児がん寛解後、ヒステリー症状を示した女児例」が提示され、座長の灘岡壽英先生と特別講演の講師である上別府先生をコメンテーターに症例の検討を行いました。

特別講演は「子どもと医療PTSD（心的外傷後ストレス障害）」と題して東京大学大学院医学系研究科家族看護学分野助教授の上別府圭子（かみべっぷきよこ）先生にお願いしました。講師は1978年に東京大学医学部保健学科を卒業した保健学博士で、看護師、保健師、臨床心理士の資格をお持ちです。

講演は、①子どもの場合のPTSDの診断基準、②医療PTSDの定義、③医療PTSDの歴史（特徴）、③医療PTSDの疫学、④医療PTSDへの予防的介入の順でなされました。

PTSDの診断基準は、クラスターA：外傷的な出来事への暴露に加えて、3種類の症状によって定義されています。3種類の症状とは、クラスターB：再体験（浸入的で苦痛な想起、苦痛な夢、フラッシュバックなど）の反復、クラスターC：外傷と関連した刺激の持続的回避や全般的反応性の麻痺、クラスターD：持続的な覚醒亢進症状（入眠や睡眠持続の困難、易刺激性または怒りの爆発、集中困難、過度の警戒心、過剰な驚愕反応）とされています。

「医療PTSD」は、A’：本人に起こった重症な健康障害そのものとA”：健康障害に対する医療行為のうち、1つ、または複数の出来事を外傷的に体験し、目撃し、または直面し、PTSDを生じたものと定義されます。A’に含まれるのは①疾患や外傷などの健康障害の症状、②急性期または再発・増悪・ターミナル期などの健康障害の経過、③健康障害による生活および社会的機能の低下、であり、A”は①告知や病態・治療・予後の説明、②苦痛を伴う検査・処置・治療または看護、③とくに子どもの場合は行動抑制や母子分離・社会環境の剥奪、④その他医療者のかかわりが挙げられています。

実際の子どもの医療PTSDについては、古くは1945年のレヴィの仕事があり、扁摘や虫垂切除などの小手術後の心的外傷として、①夜驚（18ヵ月以下に多い）、②攻撃的反応（5歳以上に多く、親への不服従）、③依存的反応（母へのしがみつき）、④退行症状、⑤恐怖（特に暗やみ、長期化する）を挙げています。

医療PTSDの頻度はかなり高く、8割前後とする報告もあります。また、子どもの場合は本人ばかりでなく両親の発症頻度も高く、治療後、平均6．7年経過した白血病経験者では重度のPTSD症状の出現が経験者の13％、母親の40％、父親の33％に認められたとする報告があります。

講演では、これらに対する予防的介入の道しるべが、症例を示しながら詳細に述べられました。医療者にとっては大変有意義な内容だったと思いますが、広報の遅れや日時や会場の問題なのか、出席者は医師が2名で、看護師の出席はなく、養護教諭と心理職が大半でした。「もったいない」というのが正直な印象でした。

日　時 ： 平成17年8月20日(土)、21日（日）8:30～18:50
場　所 ： 鶴岡市立荘内病院

第31回・32回庄内ICLSコース in 荘内病院！

鶴岡市立荘内病院
松　原　要　一

今回初めてICLS（Immediate Cardiac Life Support）コースの研修会が鶴岡市で荘内病院3階の講堂・会議室・リハビリセンターと2階の外来待合区域を会場に開催されましたので報告します。

今回のICLSコースはACLS（Advanced Cardiovascular Life Support）庄内実行委員会の主催で、酒田地区および鶴岡地区の救急医療対策協議会が後援しました。実行委員会の代表は県立日本海病院副院長の加登　譲先生、副代表は本間クリニックの本間健太郎先生と鶴岡地区消防事務組合の佐藤　巌救急救命士で、事務局は日本海病院にあります。

庄内地方では、二年ほど前より県立日本海病院を主な会場に、医師・看護師・救急救命士を対象に、ACLSコース（今回からICLSコース）として開催されております。受講者は既に700名を超えているとのことです。これまでも鶴岡地区から多数が受講しています。当院からも院長、診療部長、主幹医長や若手医師および研修医、それに救急外来の看護師などが受講しています。鶴岡地区の受講希望者が少なくないことから、またいつも県立日本海病院ではその負担が大きいことから、鶴岡で、できれば当院での開催を希望し、病院を挙げて協力して今回実現できたものです。

今回の担当責任医師は日本海病院の加登　譲副院長、運営担当は当院の救急外来看護師の斉藤明美係長と鶴岡地区消防組合の佐藤　巌救急救命士、顧問が当院の松原要一院長で、今年の3月から計画を進めてきたものです。

受講者は鶴岡地区を中心に、酒田地区、最上地方、秋田、新潟などから医師19名、看護師50名、救急救命士3名の計72名で、36名が二日に分かれてそれぞれ講義と6ブースに分かれての実習研修を受けました。聞くと見ると（やってみると）では全く別物で、本当に勉強になります。人生観が変わるほどです。

なお、一日36名の受講者に対し、一日目は65名、二日目は51名、延べ116名のスタッフが庄内だけでなく県内の村山、置賜、最上から、また県外からは秋田、新潟、宮城、群馬から馳せ参じて受講者の指導に当たりました。まさに救急救命に命を（人生を）かけている、敬愛すべきボランティアの人々です。

研修終了後、受講者に日本医師会ACLS（二次救命処置）研修修了証が手渡されました。

研修参加者と研修スタッフに感謝すると共に、荘内病院の協力に敬意を表します。

大変な仕事ですが、今後も鶴岡で、できれば荘内病院で、二次救命処置研修会を年に一回は開催し、庄内地方の救急医療の充実に寄与したいと思っています。

日　時：平成17年8月27日(土)～28日(日)
場　所：鶴岡市立荘内病院　3階講堂・会議室

第3回　ＴＮＴ山形県研修会

鶴岡市立荘内病院
松　原　要　一

今回初めて臨床栄養治療学講座であるＴＮＴ（Total Nutritional Therapy）山形県研修会が鶴岡市で荘内病院3階の講堂と会議室を会場に開催されましたので報告します。

入院患者の栄養障害、特に低栄養を診断・治療することは、本来の疾患の治療成績の向上に有用であることは30年以上も前から知られています。しかし、いまだに大多数の病院では、実際の診療ではおろそかにされていると言えるでしょう。その理由は様々ですが、遅ればせながら、最近になってチーム医療の一つとして実行され、臨床効果を上げている病院が増えてきています。その中心になるのがＮＳＴ（Nutrition Support Team）で、その活動が盛んに報告されるようになり、多くの病院でその対応が始まっていることが伺えます。

近々、ＮＳＴ活動の保健診療報酬が認められ、また、病院機能評価のVer.5.0からはＮＳＴが必須項目になり、その認定は日本栄養療法推進協議会（ＪＣＮＴ）が行うことが決定されています。

このような経過から、日本静脈経腸栄養学会（ＪＳＰＥＮ）では、一昨年よりＮＳＴのディレクター養成講座であるＴＮＴを開催しており、既に全国で3，000名以上の受講修了者を認定しています。山形県でも50名以上の医師が受講しており、今後ＪＣＮＴが認定するＮＳＴ医師の資格として有用になると考えられます。

本年度は、当院の要望で、第3回山形ＴＮＴ研修会が庄内鶴岡地区の当院で8月27日と28日の二日間にわたって行われました。主催は日本静脈経腸栄養学会ＴＮＴ北海道・東北ブロック東北ＴＮＴ研修会（代表世話人　渡辺病院　院長　標葉隆三郎）で、ＪＳＰＥＮとアポットジャパン㈱が共催しました。そのプログラムは、厚生労働省・文部科学省・日本医師会の後援を受けています。

今回の受講者は、当院および県立日本海病院など庄内地方から12名、県立中央病院、山形大学医学部付属病院、山形済生病院、北村山公立病院など県内から17名、そして県外の福島から2名、秋田から1名、の計32名でした。

研修は二日間にわたって、はば缶詰状態で、講義としてＴＮＴの概要・目的の説明の後、第一章から第十二章を、そしてワークショップや症例検討など実践的な研修が行われました。大学時代にも無かったようなハードな日程で、密度の高いプログラムでした。

講師は、東北ＴＮＴ研修会代表世話人　標葉隆三郎渡辺病院院長、山形大学第二内科武田弘明助教授、矢吹病院　矢吹清隆理事長、鶴岡協立病院内科　高橋美香子内科部長補佐、鶴岡市立荘内病院　松原要一院長の4名で、受講者と同様ハードな日程をこなしました。私も講師の一人としてこれに参加し、既にＴＮＴ研修を済ましているものの、個人的には大変勉強になったと思っています。

今後、全ての医療機関、急性期病院、慢性期・療養型病院、老健施設などにＮＳＴが必要条件になると考えられます。このような研修会が山形県内で、また地元の庄内地方で定期的に行われることが望まれます。

マイペット＆マイホビー

―第２５回―

田　宮　長　二

わが家のペットはシェットランドシェルティーです。白黒茶の三色で、小熊と間違われそうな犬です。名前は「キノ」といいます。木野俣の地名をとり「キノ」と呼んでいます。

わが家に来たのは生後１ヶ月で手の平にのる位の小さな犬でした。今では１０kg以上にもなっています。小さい時はケースに入れてどこにでも連れて行ったものです。

血便がでて獣医さんに診てもらい、心配でペットショップにしばらくあずけました。そのせいか、狂犬病、八種混合の注射とかで獣医さん、ペットショップに行くとブルブル震えたり、おもらししたりの小心者ですが、わが家にとっては大事な番犬です。

来客のある時はけたたましく吠え、妻が近所の人と立話をしたりするとヤキモチ焼きで鼻にしわをよせ、吠えまくっている甘えん坊のやんちゃ娘です。

先生の家には犬がいるからおっかないと言われます。私のいうことばよく聞き分ける犬です。毎日午後５時の町のチャイムが鳴ると、その昔にあわせて気持ちよさそうにリズムにあわせてウォ～ウォ～と声をあげています。

犬が、野菜、果物等を好きというと、人に笑われますが、八百屋さんが、好物のイチゴ一箱玄関においていったら、犬小屋のカギをどうして開けたか、イチゴ一箱（４パック）をたいらげてしまい、口一杯イチゴをつけ満足そうな顔をしていたのです。しかるにしかれずあきれてしまうことがありました。家庭菜園でキュウリ、トマト等の好物を見つけると鼻・手・足を使い四苦八苦して、なんとしてでも食べているのです。わが家の困ったやんちゃ娘ですが、“キノ”と呼ぶとしっぽをふりながら私の所に来ますし、可愛い犬です。朝・夕、健康のため散歩しています。

愛犬　キノ

私の趣味は年一度白甕社展に油絵を出しています。今年もなんとか出品しました。

私は鶴岡地区医師会の写真クラブに入っていますが、下手の横好きのようです。

妻に誘われて家庭菜園を楽しんでいます。車庫の上にプランター栽培でキュウリ、トマト、ミニトマト、ナス、葱、南瓜、ピーマン、シシトウ、インゲン、アシタバ、モロヘーヤ、夕顔等構えています。キュウリは３０cm以上にもなる品種を植えています。キュウリにはイボイボがあり痛いですが、新鮮なので生食で味噌をつけ、まるかじりが一番おいしいです。

ブルーベリー、すもも、あけび、栗、キウイフルーツを植えていますが、昨年、ブルーベリーは鳥に食べられ、すももは「サル」に食べられ、さんざんでしたが今年はブルーベリーには網をかけ収穫。（ジャム、生で食べてもおいしいです。）すももはサルにとられましたが、少し収穫がありました。ジューシーでおいしいものでした。秋にはあけび、キウイフルーツがとれます。収穫時期にはサルが悪さをします。南瓜を両手に抱えている姿が見られます。クマ・サル・ムジナ・テン・へどなど、自然がいっぱいです。山での生活は大変ですが、自然を楽しみながら診療していきたいと思います。

車庫の上のプランター栽培の家庭菜園

キュウリがこんなになりました

Introduction

勤務医 No.69

宮原病院
外科　松土　尊映（たかあき）先生

平成17年６月１日より宮原病院外科に着任致しました松土尊映と申します。鶴岡地区医師会の諸先生方には既に大変御世話になりまして、感謝申し上げます。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

私は東京都世田谷区出身で、私立海城高校卒業後、東京医科大学に入学し、平成15年３月卒業しました。その後東京医科大学病院外科第３講座に入局し、２年間の研修後、初めての外勤先として宮原病院に着任致しました。

宮原病院院長の宮原先生は、東京医科大学外科第３講座の大先輩であり、外科医としての技術、知識、精神などを日々勉強させていただいてます。

宮原病院では、大学病院のような紹介患者で他院である程度診断がついている人達ではなく、プライマリー患者を自分で診察、検査し、確定診断を下し、治療をしていく。又、その後のフォローアップもしていくという貴重な経験をさせていただいてます。又、大学病院では消化器外科に入局していたので、当然消化器疾患の患者ばかりでしたが、宮原病院では、肺癌や慢性閉塞性肺疾患等、多種多様な患者さんを看させていただいてます。私が至らない点は当然多いのですが、宮原病院の諸先生方、スタッフに支えられながらも一人の医師として責任感を非常に感じ、充実した日々を送っております。

まだ駆け出しの若輩者なのでできるだけ多くのことを学び吸収し、患者さんに還元することができればと考えております。

鶴岡市の印象ですが月山、羽黒山、湯殿山、鳥海山などの山が近くにあり、日本海までは20分程で行くことができるという自然が豊かな所で、今年の夏は海へと何回も出かけました。元々大学でワンダーフォーゲル部に所属していたので登山も好きで、秋には色々な所へ行き登山を楽しむつもりです。温泉も数多く、当直の翌日には近くの温泉へドライブしたついでに立ち寄ったりしています。又、食べ物が本当においしい所で、春は佐藤錦、夏は岩かき、だだちゃ豆を味わいました。初めての一人暮らしで料理することが新鮮で楽しく自炊することが多いため、外食が少なかったですが、今、そばのおいしいお店を色々と教えてもらっているのでできるだけ多くのお店を食べ歩こうと思っています。お酒も自分は日本酒が好きで、蔵元の多い鶴岡市は本当にすばらしい所です。

鶴岡市の魅力を堪能している日々ですが、時間が経つのは早いもので着任して３ヶ月経過しました。その間に自分が診察し治療フォローアップしている患者さん、鶴岡地区の医師会の諸先生方から紹介していただいた患者さんもできました。

もとより微力でありますが、鶴岡市の医療に貢献できるようこれからも日々努力する所存です。今後とも諸先生方におかれましては御指導、御鞭撻の程御願い申し上げます。

表　紙

「朝靄の上池（大山公園）」

桜　井　　晋

早朝に開花し、昼頃には萎んでしまう蓮の花が密生し、朝陽をあびて咲き誇っています。

毎年お盆前になると、仏前を飾るハスの刈り取りが、大山公園上池下池浮草組合員の方々により、刈り頃の花と葉を、小舟を操りながら刈り取って行きます。

～ 編 集 後 記 ～

衆議院選挙で小泉首相の戦略に民主党は大敗し、自民党の圧勝に終わりました。郵政民営化を最大の争点とし小選挙区制度をうまく使った勝利、民主党の受け身的姿勢が国民に受け入れられなかったなどいろいろ言われているようですが会員の皆さんは如何思われますでしょうか？

昨年ほどではありませんが、今年も台風による大きな被害がアメリカや九州などでありました。9／4に山形県と鶴岡市の合同防災訓練が行われました。目的は大規模地震災害の発生に備え、防災体制の確立と防災意識の高揚とのことでした。医療救護訓練としては健康管理センターの駐車場に救護所が設置され、外傷患者のトリアージ、救急搬送などの訓練がありました。山形県医師会救急・大規模災害等対策委員会が発足し、各地区ごとの救護体制確立を目指しているようです。昨年の中越地震で問題になったように、大規模災害時は山形県全体でどのように動くかを整理し、救護医療に対しても全県的に考えなければならないと思います。当地区医師会での防災救護体制はまだ確立されていないようですが、検討しなければならない課題と思います。

“めでいかすとる”では来月から新しい企画を予定しています。マイペット＆マイホビー同様に投稿よろしくお願い致します。

（石原　　良）

編集委員：伊藤末志・三原一郎・中村秀幸・石原　良・福原晶子

発 行 所：社団法人鶴岡地区医師会　山形県鶴岡市馬場町 1- 34

TEL 0235- 22- 0136　FAX 0235- 25- 0772　E-mail　tsurumed@mwnet.or.jp

URL　http://www.mwnet.or.jp/~tsurumed/

印 刷 所：富士印刷株式会社　鶴岡市美咲町 27- 1　TEL　22- 0936(代)